

J-クレジット制度管理者御中

実績確認概要書

平成 30 年 9 月 5 日

審査機関名 リテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	食品工場におけるボイラーの更新による CO2 削減事業 (A 重油→都市ガス)
承認番号	JCDM-PJKC0972
排出削減事業者名	株式会社両口屋是清
排出削減共同実施事業者名	株式会社ウェイトボックス
事業実施場所	株式会社両口屋是清 小牧工場 (愛知県小牧市大字間々浦通り 18)
事業の概要	本事業は、食品工場におけるボイラー設備を高効率な設備に更新し、A 重油から低炭素燃料の都市ガスへエネルギー転換することによって、二酸化炭素削減を図るものである。
排出削減量の計画	2009 年度 : 27 tCO ₂ /年 2010~2012 年度 : 321 tCO ₂ /年 2013 年度 : 333 tCO ₂ /年 2014 年度 : 297 tCO ₂ /年 2015 年度 : 303 tCO ₂ /年 2016 年度 : 318 tCO ₂ /年 2017 年度 : 291 tCO ₂ /年 (事業実施期間合計 2,532 tCO ₂)
認証期間	開始日 2010 年 3 月 1 日 終了予定日 2018 年 2 月 28 日 ※J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2018 年 2 月 28 日となっている。

排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新
---------	-------------------

2. 本実績確認の対象期間

2016年10月1日～2018年2月28日（第3回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績確認期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	497 tCO ₂ （2016年10月1日～2018年2月28日）
-------	--

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	審査手続き
排出削減量が承認排出削減計画に従って実施した結果生じていること。	1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないため該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 ボイラー付属の流量計による燃料使用量データ及び事業者へのヒアリングにより、導入設備は実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	1) モニタリング方法の確認 ボイラー付属の流量計による燃料使用量データ、事業実施前後ボイラーのカタログによる効率値及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、モニタリング方法が方法論及び当該削減計画に沿って実施されていたことを確認した。 2) 活動量の正確性 ボイラー付属の流量計による燃料使用量データ及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、エネルギー使用量の記録・保存は適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確認した。

	<p>3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認 J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.3.2により、排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等は方法論及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 ボイラー付属の流量計による燃料使用量データと集計表との突合、さらに計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に大きな誤りはないことを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は2016年10月1日から2018年2月28日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は2018年2月28日となっているため、当該算定結果は適切であることを確認した。</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

本実績確認期間の実績確認の結果、承認排出削減事業計画からの重要な変更点がないことを確認した。

6. 特記事項

本実績確認期間における省エネルギー量は、原油換算 56.6KLであることを確認した。

以 上